

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

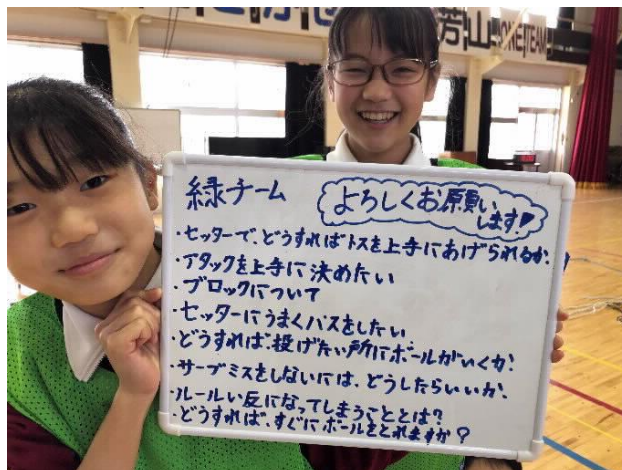
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 郡山市立芳山小学校 】

| | |
|-------------------|---|
| 1 実践テーマ | V |
| 2 実施対象者 (学年人数) | 第6学年2組 26名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 () |
| 4 目標 (ねらい) | 子どもたちのスポーツに対する興味関心を高め、スポーツや運動に進んで親しもうとする態度を育てる。 |
| 5 取組内容 | <p>体育科「ソフトバレーボールを行った。デンソー・エアリービーズアカデミーディレクターの山口祐之氏をお招きしての時間を単元後半に位置付け、授業を展開してきた。</p> <p>事前に5時間、学級を3チームに分け、スパイク、サーブ、レシーブ、トスの練習と簡単なゲームを行った。その中で、子どもたちはそれぞれ悩みをもつ。そこで、悩みをホワイトボードにまとめ、山口氏の講演の機会を待った。</p> |



5 取組内容

山口氏は講演当日、子どもたちの悩みを資料としてまとめてくださり、それをもとに前半は講義をしてくださいました。

郡山市立芳山小学校 オリパラ教育【ソフトバレーボール】

緑チーム

- ・セッターでどうすればトスを上手にあげられるか
- ・アタックを上手に決めたい
- ・ブロックについて
- ・セッターにうまくパスをしたい
- ・どうすれば投げたいところにボールが行くか
- ・サーブミスしないにはどうしたらいいか
- ・ルール違反になってしまうことは？
- ・どうすればすぐにボールをとれますか？

青チーム

- ・アンダーハンドをちゃんとできるようにしたい
- ・セッターにキレイに返したい
- ・焦らないようにしたい
- ・オーバーハンドの手を三角にしたい
- ・ブロックを忘れないようにしたい
- ・フォーメーションをどうすればいいか
- ・ガッツの出る掛け声を教えてください

白チーム

- ・アンダーとオーバーのタイミング
- ・アンダーの上手なコツ
- ・スパイクの速くできるコツ
- ・セッターがもっと上手になる
- ・急に来たボールの取り方
- ・ブロックのコツ（アタックの時にも）
- ・サーブのコツ
- ・カバーのコツ
- ・3回目で返さないといけないプレッシャー
- ☆バレーボールで一番大切なこと

※質問の内容別に分けてあります。

パスやトスで気を付けたいこと（投げるときも）

- ・最大限丁寧に打つ次に触る人ができるだけ簡単にできるように心がける
- ・前に触る人がどこにパスしても、反応できるような体の準備と気持ちの準備をしておく
- ・アンダーもオーバーもボールをヒットするときはできるだけ同時にあてる（各指や、手のひら、がばらついてあたってしまつと、ボールの方向が定まらない）

サーブをミスしないために

- ・難しく考えない
- ・練習方法としては、相手コートに届く場所から、一番簡単な打ち方で練習してみる【難しい打ち方でミスしてしまうより、簡単な打ち方でミスしないほうが点数になります】

バレーボールは、ボールを止められない（持てない、キープできない）スポーツ
『予測』⇒『実践』⇒『フォロー』の繰り返し

アタックを上手に打つために

- ・ボールなしで、ジャンプしてアタックを打つフォームがスムーズにできるかな？
- ・リラックスしてジャンプ、空中で力まずにスイング、安定した着地
- ・それができるようになったら、トスのタイミングを合わせてみよう。

それ以外については、実際に伺ったときに改めて聞きながら答えたいと思います。

バレーボールは、
チームメイトを思いやる気持ちがとても重要です。
『人のために最善の準備をする』
『人のために最善のプレーをする』
『人のために最善のフォローをする』

後半、サーブ、ゲームなどの実戦形式での活動を行った。



最後に、本日のソフトバレーボールの試合の中で見られた様子をもとに「チームワークを大切にすること」についての具体的な話していただき、さらに「チームワークはあらゆるスポーツ、さらには社会で必要なことである」とお話しくださいました。



その後「クラスのバレーボール大会（2時間）」では、教えていただいたことをもとに、楽しみながらも真剣に試合をしており、さらに3チームともチームとしての高まりを感じさせるものであった。

| | |
|---------------------------------|---|
| <p>6 主な成果</p> | <p>ソフトバレーボールを通して、「チームワークを大切にすること」とは、具体的にどうすればよいのかを、知ることができた。「チームワーク」という言葉が抽象的であったため、ご講演でお話しいただいた「ボールを全員が体の向きを含めて追いかける」「全て自分のボールだと思って構える」「チームで決めた声を積極的に出す」などを行動に移すことによって、子どもたちは自分のチームが変わる瞬間を目の当たりにしていた。一流選手の指導が、子どもたちの悩みにピッタリとマッチしていた。そのため、子どもたちが書いた振り返りの作文では、「自分の存在がチームに与える影響」について書いた子が多かった。</p> <p>運動が苦手だった子が、「これからは苦手だと思っても、まずやってみようと思った。チャレンジしたいと感じた」と単元末の振り返りの時間に語ってくれた。</p> <p>ソフトバレーボールのような、技能の個人差が生まれやすい競技であっても、チームで支える雰囲気や単元を経て出来上がってきたために、この思いが生まれたのだと感じた。</p> |
| <p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p> | <p>実際にご講演をいただくまでに、子どもたちがソフトバレーボールをすることにあたってどんな悩みがあり、どういうプレーをしたがっているのかを、講師の先生と共通理解を図った。</p> <p>講師の先生のご講演を単元後半に位置付け、その後の学習でも生かすことができる機会を設けた。</p> |
| <p>8主な課題等</p> | <p>単元構想を立て、どの時間に何を指導していただくことが必要なのかを明らかにしていくこと。</p> <p>オリパラ教育に絡めての活動となるので、「オリンピックパラリンピックへの興味・関心を高める」など、子どもたちにとって無理のない絡め方を計画する必要がある。そのためには、授業者が子どもたちに提示する資料や発問などを精選し、単元のどの段階で意識させるかを考えていく必要がある。</p> |
| <p>9来年度以降の実施予定</p> | <p>今回学んだ「チームワークの大切さ」を、学校で大事にしている「敬・信・愛」の精神と関連付けて指導を継続していきたい。</p> |